2014年度

KITA

JICA研修コースの実績紹介

「アフリカ地域企業家育成・中小零細企業活性化（A）」

2014年8月20日

（公財）北九州国際技術協力協会　研修部

1. 研修コースの紹介

1)コースリーダー / 小杉　允

2)研修コース 名

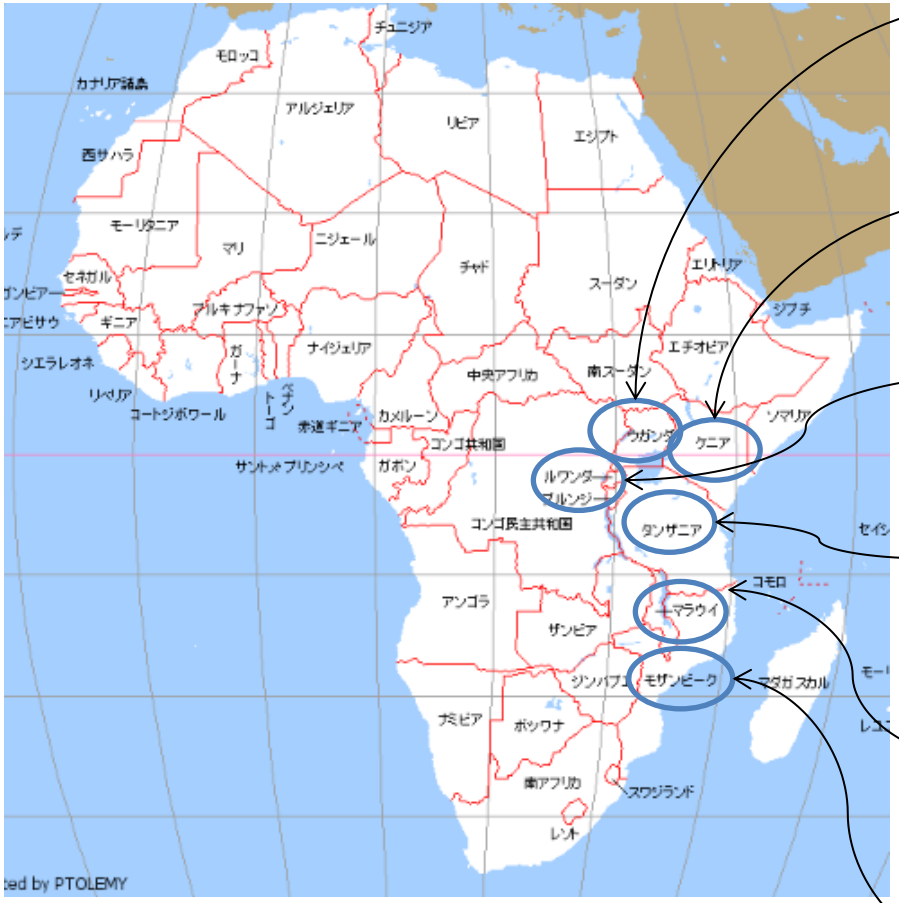
・和文：　課題別研修「**アフリカ地域企業家育成・中小零細企業活性化（A）**

・英文：　Capacity Development for Entrepreneurs and MSMEs Activation in African Countries (A)

3)研修受け入期間:　2014/5/27 ～2014/6/27

4)参加研修員：　10名（6カ国）

【参加研修員の国名と位置】



ウガンダ共和国
Republic of Uganda

1名

ケニア共和国
Republic of Kenya

3名

ルワンダ共和国
Republic of Rwanda

1名

タンザニア連合共和国
United Republic of Tanzania

2名

マラウイ共和国
Republic of Malawi

2名

モザンビーク共和国
Republic of Mozambique

1名

研修参加国　6ケ国　（10名）

2. 研修目標

【上位目標】 参加者の組織において企業家育成・地場産業育成施策が実施される。

【案件目標】 参加者の所属組織において企業家育成・地場産業育成施策が作成される。

【目的】

・本研修は、アフリカ地域の農家や貧困層向けビズネスの若手企業家や中小零細企業経営者が日本で企業経営の戦略、人材育成、マーケティングなどの基礎知識を習得し、中小企業の振興や地場産業の活性化の実態について肌で感じてもらうことを狙いとする。

・併せて、行政関連機関による企業家育成及び中小零細企業・地域活性化への支援の実態を紹介することで、官民双方にとって連携した有益な研修の場を設定、且つ、アフリカ地域の連帯・情報交換など連携を深める場としても期待する。

KITA

案件目標

企業家育成・地場産業育成施策が作成される。

自国での検討～実施

日本での研修

単元目標①
日本の起業室育成及び中小例先企業・地場産業振興施策を理解し、推進のための産官学の役割を理解する

単元目標②
日本の企業マネージメントでの経営戦略、人材育成、マーケティングの基礎知識を理解し、その応用により自国の課題解決を推進する

単元目標③
本邦中小零細企業。地場発電設備を視察し且つ日本の文化的習慣を学ぶことで企業家育成・中小零細企業活性化への有効な手法を考える

単元目標④
起業及び地場産業活性化のための「アクションプラン」が策定できる

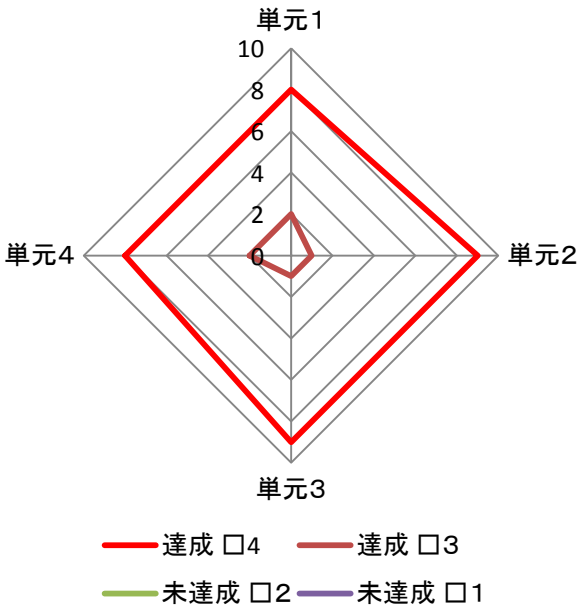
単元目標⑤
起業家育成・地場産業振興施策が検討・実施される

3. 達成度（単元評価）

（質問票(B)の解答より）

１．単元目標を達成しましたか？

	←← 達成		未達成 →→	
	達成		未達成	
	□4	□３	□２	□１
単元１	8	2	0	0
単元２	9	1	0	0
単元３	9	1	0	0
単元４	8	2	0	0



◆座学及び関連施設訪問により中小企業の支援策の実施状況や実施方法に関する知識が得られた。

◆一村一品運動、小電力を活用した再生エネルギー施設、国際進出企業訪問等により活性化のための知識・情 報が得られた。

4. コースリーダー所感

1. 今回参加した研修員の皆さんは、性格も明るく質問も活発でした。研修期間中は時間の遅れはなく、規律を良く守り、ワークショップも慣れており、能力の高い素晴らしいメンバーでした。帰国後の研修成果フォローも十分対応できるものと確信しています。

2. Weekly Report集計とアンケート結果から、参加された研修員の満足度は高く今回の研修コースは極めて高い評価が得られました。また、今回の研修では、新しい試みも実施しました。
1）新IASの採用(課題の情報収集)、2）中間討論会①（ファシリテーション）、3）中間討論会②(アクションプラン用IASの絞込み)、4）国際進出中小企業の訪問、等々。

3. 講義・見学について
①【一村一品運動】：スタート当時の考え方や活動を重点に講義見学を行い高い評価を得た。
②【再生可能エネルギー】：ソーラー、風力、水力と無電力地帯で活用できるものを紹介したので帰国後に議論及び展開推進に期待したい。

研修員の感動スピーチ
（於：閉講式）

閉講式でスピーチされたジー・ケーさん

Ms KINYUAH Gladys Karen Wangu (通称：ジー・ケーさん)の謝辞
～研修員代表～

◆和訳全文をご紹介します。

閉講式にご出席の皆様、コンニチハ。

アフリカ地域 「起業家育成・中小零細企業活性化（A）」コースは、非常にわかりやすく、期待を裏切らないものでした。この研修で得た知識は、私達研修員の母国の中小零細企業の将来の活動や経済全体の発展を活性化させるのに役立つことでしょう。

研修員の中にはOVOP（一村一品）の概念をよく知らない者もいました。しかし、今は、皆、その分野の専門家となりました。この概念は、私達の母国の数少ない輸出製品を販売促進する一つの方法であり、雇用と富の創造を容易にしてくれるものです。

私達は、それをアフリカが直面している多くの挑戦への解決策であると理解しています。カイゼンや5Sを適用することによって、いかに生産性を増加させるかということに関する知識は、私達にとって非常にありがたく、また、きちんと整理するだけで生産コストを減らし、生産性を上げることができると知り、わくわくしました。

アフリカでは、中小零細企業（以下、MSME）の大半は、市場情報が限られているため、地域市場でも世界市場でも自分達の製品の販売ができていませんが、今、私達は、市場情報にオンラインでアクセスすることができ、最小のコストで大金を稼ぐことができることを知っています。

有効で、確実で、実現可能な風力発電や水力発電、そして、農村地帯の零細企業家のためのソーラーランタンについての新しい知識は、それが現実となるまで諦めたくない私の夢となりました。実施できれば、それは多くのMSMEにとってまさに「ライフチェンジャー（生活を一変させるもの）」となるでしょう

アフリカのMSMEは、貧困の程度が高いせいで、資本が限られていることを私達は認識しており、したがって、アフリカのMSMEの業績を高めるべく、安価で信頼できるエネルギー源の供給のための財政援助について、私達の提案を前向きに検討してくださるよう、JICAにお願いしています。

アフリカは、低品質な製品を提供した結果、地域市場でも世界市場でも競争力が持てませんでした。彼らは、品質管理には継続的な人材育成が必要であることに気づかなかったのです。私達は、この研修に参加したおかげで、ビジネスという視点で物事を見る目を養うことができ、そして、技術開発はコストではなく、投資であるということがわかりました。

私は、この重要な研修コースに参加するために、私達に資金援助してくれ、世話をしてくれた日本政府に感謝申し上げます。また、私達が任務を離れ、遠く離れた国（日本）に来ることを許してくれた母国政府にも感謝申し上げます。私達は、この少数特権集団の一員であったことを誇りに思い、また、光栄に感じています。

研修員を代表して、日本政府、講師の皆様、私達が訪問した機関や企業の代表者の皆様に感謝の意をお伝え下さいますよう、JICA-KIC及びKITAの皆様にお願いします。私達は、与えられた知識に感謝します。知識は力です。そして、私達に知識という力を与えてくださってありがとうございました。

私達は、働くことに対して誠心誠意尽くす日本文化について沢山のことを学びました。私達は、日本では全ての人が「時間を守る」ことを常に意識していることに感銘を受けました。 それは、パフォーマンスの基本要素として私達が取り入れられるものであります。スモッグが始終立ち込めていて市民が空の青さを忘れてしまった世界の他の工業都市に比べて、工業国である日本のきれいな環境と新鮮な空気を称賛したことを忘れることはできません。

最後に、穏やかで、微笑を絶やさず、献身的で、寛大なKICの受付の皆様とレストランのスタッフの皆様にも感謝します。「スバラシイ」。

JICAとKITAの皆様に、私達研修員がこの研修で得た知識を自国の市民のために共有する努力を惜しまないということを約束します。私達は、感謝の印として、MSMEに関連していようとなかろうと、何らかの結果を追跡調査する必要がある時は、皆様のために協力することを約束します。

私は、研修員の皆さんがいつまでもここに滞在し、主催者からの温かいもてなしを受けたいと思っていることを知っていますが、家族や職場が待っています。

ですから、私が皆さんを代表して、私達を研修に招待して下さった主催者の皆さんに「ありがとう」と「さようなら」を言います。しかし、それはただ身体的な「さようなら」であり、JICAまたはKITAの職員としてではなく、真の友人として私達の心の中にいつまでも留めます。

- 皆さんに会えなくなると思うと寂しいです。
- 「日本とアフリカの連携、永遠なれ」と言いましょう。
- 私達はアフリカに帰国しますので、私の研修仲間に旅の安全を祈ります。
- アフリカとJICAの火を燃え続けさせましょう。
- ありがとう、そして、神のご加護を。

6. 研修思い出アルバム